

平成27年度学校評価結果報告書

目次

1. 平成27年度岩瀬日本大学高等学校自己評価結果 P1～P3
2. 平成27年度岩瀬日本大学高等学校外部評価結果 P4～P6
3. 平成28年度取り組み目標と方策 P7～P10

岩瀬日本大学高等学校

平成27年度 岩瀬日本大学高等学校自己評価結果

本校の目指す学校像	生徒のもつ生きる力(一人ひとりが「夢=やりたいこと」を見つけ、それを持ち続ける力)を育む。そのために、一人ひとりを大切にし、「わかった」「できた」喜びを実感できるわかる授業の展開、教育環境の美化に努め、進路指導の充実、生徒会活動・委員会活動・部活動の充実を図る。
本校の特長及び課題	日本大学の付属としてのメリットを活かした日本大学への推薦入学をはじめ、国公立大学、私立大学への進学でも高い現役大学進学率を誇っている。そのことは徐々に地域でも理解されている。しかし、生徒の学力は25の付属校の中で下位に位置し、大学進学に必要な学力の達成が不十分であるの学力向上に努める必要がある。また、公立志向の強い地域での生徒確保に向けて進学以外の更なる魅力ある学校づくりが必要である。

平成27年度の取り組み重点項目

本年度より、日本大学の推薦入試制度の変革があり、新制度のもとで日本大学への進学者数を減らさないため、学力向上の面では、日本大学基礎学力対策室を立ち上げ、一人一人の学力向上のための施策を練り、全教員対象の研修会や夏休みや9月の連休での授業実施など行う。日々の授業では、進路意識の高揚とわかる授業の展開を目標に取り組んでいる。進路指導の面では、新制度の内容を教員だけでなく、保護者への周知徹底をはかるため保護者会や研修会を開く。昨年度以上の合格者を出すため、日本大学90名以上、国公立10名以上を目標に全教員が一丸となって、進路指導に取り組む。

今年度より、いじめ撲滅を目標に、「いじめ防止対策室」を立ち上げ、生徒アンケートの実施(例年実施)、いじめ防止委員会の定例実施、日々の教員による生徒観察に務めている。また、学校生活全般では、朝の立証指導に始まり、帰りの集団下校の指導と生徒の安心安全のに務め、日々見守りを怠らないようとする。

特別活動や生徒会活動では、生徒が自主的に行動し、自ら達成感を得られることを心がけ指導する。地域と関わり、貢献できる生徒の育成に努める。

さらに、学校行事の形骸化を防ぐため、一つ一つの行事の意義を再考し、次年度に向けての行事の精選に努める。

平成27年度の取り組み結果

毎年、どの学年においても4月は、昨年度の到達度テストの成績より、学力の向上がみられる。3年9月においても昨年度より学力の向上がみられるが、4月の成績と比較すると伸び悩みがみられる。他の付属校も本校同様にラストスパートをかけてくるので、さらに上回る学習が必要である。

進路の結果は、日本大学へ103名と目標数を大きく上回ることができた。また、国公立も推薦で既に2名の合格者を出しており、昨年度の推薦入試結果を上回っている。

現在のところ、生徒間のトラブルは多少あるもののいじめの件数は0件であり、教員の見守りが効いている。登下校時の苦情も多少有り、引き続き根気よく指導を続けて行く。

部活動では、昨年度実績を上回る結果を出す部活が増え、活動に活気がみられる。生徒会活動も自主的な活動が増え、また、夏休みには近隣の小学校への学習指導ボランティアを募るなど地域への貢献もみられる。

自己評価結果(総合)

評価基準: A(よくできている), B(できている), C(あまりできていない), D(できていない)

B

1. 学力向上に関する事項

①授業に関する項目	評価項目 (1)指導目標は十分達成されているか。 (2)教科の目標・指導内容・評価計画等を明確にした年間指導計画を作成しているか。 (3)生徒一人一人が主体的に学習に取り組む工夫がなされているか。 (4)生徒個々に合わせた指導を行っているか。 (5)適切な成績・進級判定ができるか。 (6)生徒に満足される授業ができるか。	B
②学習環境および連携に関する項目	評価項目 (1)施設・設備は教育活動に支障がないか。 (2)各コースにあったカリキュラム編成ができているか。 (3)1クラスの人数は適正であるか。 (4)生徒の学習、課外活動に対して、図書室等の施設、運営は有効に機能しているか。 (5)生徒の成績や学習状況が把握され、その情報が共有されているか。 (6)問題を抱える生徒への指導方針が共有化され、統一された指導がなされている	A
③成績管理および教員研修に関する項目	評価項目 (1)生徒の個人情報の管理および生徒指導要録の記入、指導、点検、保管は的確になされているか。 (2)公開授業を計画的に実施できたか。 (3)授業改善に向けた組織的な取り組みや工夫がされているか。 (4)校内・校外への研修参加を奨励したり研究紀要へ出稿を促す等、教職員の資質の向上に配慮しているか。	B

2. 学校生活に関する事項

①学年および学級運営に関する項目	評価項目 (1)学年の目標、指導計画を明確に示され、運営されていたか。また、その反省を行ったか。 (2)学級の目標、指導計画が明確に示され運営されていたか。また、その反省を行ったか。 (3)LHRの時間が計画的に運営されていたか。また、その反省を行ったか。 (4)学校行事等に計画的、積極的に参加する指導ができたか。また、事後指導ができたか。	B
②生徒指導に関する項目	評価項目 (1)生徒の健康や生活状況が把握され、その情報を共有し指導できたか。 (2)生徒の成績や学習状況が把握され、その情報が共有され指導できたか。 (3)問題を抱える生徒への指導方針が共有化され、指導できたか。 (4)保護者へ連絡を取り、連携のとれた指導ができたか。 (5)どの生徒にも公平に接し、指導できたか。 (6)保健室の活用が適切になされたか。(7)教育相談室の活用が適切になされたか。	A

3. 進路指導に関する事項

①学年および学級における進路指導に関する項目	評価項目 (1)進路に関して学年で目標、指導計画を明確に示され、指導されていたか。 (2)進路に関して学級で目標、指導計画が明確に示され指導されていたか。 (3)進路情報を適確に生徒、保護者に伝達できたか。	B
②進路指導環境に関する項目	評価項目 (1)生徒の特性を考慮し、進路指導希望を踏まえた年間指導計画の作成ができたか。 (2)入学から卒業までを見通した系統的な進路指導計画が作成されているか。 (3)進路情報の提供等に進路資料閲覧室の活用ができたか。 (4)進学や就職のみでなく、職業観を醸成させる指導に努めているか。 (5)三者面談や保護者会などで生徒や保護者の意見、要望の把握に努めてたか。 (6)生徒の進路希望に沿った指導を行い貢献できたか。	B

4. 生徒会・部活動に関する事項

<p>①特別活動や ボランティア活 動に関する項 目</p>	<p>評価項目 (1)部活動・生徒会活動において、目標を立案し計画的に活動指導を行っているか。 (2)生徒の意識や状況を踏まえ、自立的・意欲的な活動の推進に努めたか。 (3)保護者とのコミュニケーションは十分にとれているか。 (4)活動の間、常に立ち会うように努めたか。 (5)目標を達成または、満足できる成果を上げることができたか。</p>	<p>B</p>
--	---	----------

平成27年度岩瀬日本大学高等学校外部評価結果報告書

1. 平成27年度外部評価委員会の実施状況

①日時平成28年3月5日(土)午前11時より

②場所本校B棟3階会議室

③評価者:外部評価委員(12名)

※質疑応答対応者:学校教職員8名

2. 評価事項

平成27年度の外部評価事項は、本校の教育活動を次の4項目に大分類した。

①学力向上に関わる事項 ②学校生活に関わる事項

③進路指導に関わる事項 ④生徒会・部活動に関わる事項

3. 外部評価方法及び評価基準

学校の教育活動の観察や教育活動に関する質疑応答を通し、本校の自己評価結果(自己評価基準A:よくできている、B:できている、C:あまりできていない、D:できていない)が適切であったかを3段階(「もっと高い評価をすべき」、「校内評価は適切である」、「もっと厳しい評価をすべき」)で評価する。

4. 評価に使用した参考資料

①平成27年度岩瀬日本大学高等学校自己評価結果及び外部評価票

②各種アンケート結果:

・学校自己点検アンケート(本校の専任教員の教科別、学年別に集計したもの)

・教員自己評価アンケート

(本校の全教員が、自分が関わった教育事項について回答たものの集計)

・生徒授業アンケート(学校生活や授業について全校生徒が回答したもの;9月実施)

③到達度テスト分析結果

④平成27年度進路状況(1月28日現在のもの当日最新版を配布します)

⑤本校広報誌「桜真」、入試広報誌「岩日だより」、新聞部「岩日タイムズ」

外部評価結果総合

自己評価結果は適切である。

1. 学力向上に関する事項

①授業に関する項目	評価項目 (1)指導目標は十分達成されているか。 (2)教科の目標・指導内容・評価計画等を明確にした年間指導計画を作成しているか。 (3)生徒一人一人が主体的に学習に取り組む工夫がなされているか。 (4)生徒個々に合わせた指導を行っているか。 (5)適切な成績・進級判定ができるか。 (6)生徒に満足される授業ができるか。	適切
②学習環境および連携に関する項目	評価項目 (1)施設・設備は教育活動に支障がないか。 (2)各コースにあったカリキュラム編成ができているか。 (3)1クラスの人数は適正であるか。 (4)生徒の学習、課外活動に対して、図書室等の施設、運営は有効に機能しているか。 (5)生徒の成績や学習状況が把握され、その情報が共有されているか。 (6)問題を抱える生徒への指導方針が共有化され、統一された指導がなされているか。	適切
③成績管理および教員研修に関する項目	評価項目 (1)生徒の個人情報の管理および生徒指導要録の記入、指導、点検、保管は的確になされているか。 (2)公開授業を計画的に実施できたか。 (3)授業改善に向けた組織的な取り組みや工夫がされているか。 (4)校内・校外への研修参加を奨励したり研究紀要へ出稿を促す等、教職員の資質の向上に配慮しているか。	適切

2. 学校生活に関する事項

①学年および学級運営に関する項目	評価項目 (1)学年の目標、指導計画を明確に示され、運営されていたか。また、その反省を行ったか。 (2)学級の目標、指導計画が明確に示され運営されていたか。また、その反省を行ったか。 (3)LHRの時間が計画的に運営されていたか。また、その反省を行ったか。 (4)学校行事等に計画的、積極的に参加する指導ができたか。また、事後指導ができたか。	適切
②生徒指導に関する項目	評価項目 (1)生徒の健康や生活状況が把握され、その情報を共有し指導できたか。 (2)生徒の成績や学習状況が把握され、その情報を共有され指導できたか。 (3)問題を抱える生徒への指導方針が共有化され、指導できたか。 (4)保護者へ連絡を取り、連携のとれた指導ができたか。 (5)どの生徒にも公平に接し、指導できたか。 (6)保健室の活用が適切になされたか。(7)教育相談室の活用が適切になされたか。	適切

3. 進路指導に関する事項

①学年および学級における進路指導に関する項目	評価項目 (1)進路に関して学年で目標、指導計画を明確に示され、指導されていたか。 (2)進路に関して学級で目標、指導計画が明確に示され指導されていたか。 (3)進路情報を適確に生徒、保護者に伝達できたか。	適切
②進路指導環境に関する項目	評価項目 (1)生徒の特性を考慮し、進路指導希望を踏まえた年間指導計画の作成ができたか。 (2)入学から卒業までを見通した系統的な進路指導計画が作成されているか。 (3)進路情報の提供等に進路資料閲覧室の活用ができたか。 (4)進学や就職のみでなく、職業観を醸成させる指導に努めているか。 (5)三者面談や保護者会などで生徒や保護者の意見、要望の把握に努めてたか。 (6)生徒の進路希望に沿った指導を行い貢献できたか。	適切

4. 生徒会・部活動に関する事項

<p>①特別活動や ボランティア活 動に関する項 目</p>	<p>評価項目 (1)部活動・生徒会活動において、目標を立案し計画的に活動指導を行っているか。 (2)生徒の意識や状況を踏まえ、自立的・意欲的な活動の推進に努めたか。 (3)保護者とのコミュニケーションは十分にとれているか。 (4)活動の間、常に立ち会うように努めたか。 (5)目標を達成または、満足できる成果を上げることができたか。</p>	<p>適切</p>
--	---	-----------

平成28年度取り組み目標と方策			
評価項目	取組目標	取り組み	具体的方策
教育活動 (教務)	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上 ・教員の資質の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容の確認と徹底 ・教師・生徒の授業に対する姿勢の向上 ・生徒の学習の質と量の把握 ・授業の質の向上 ・内部規定、教員間の周知事項の整理 ・教科科目指導内容の充実と周知 ・教員採用 ・履修の完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストや模試の意義を生徒に伝えることにより目標設定や学習計画の設定が出来るようにする。 ・規律ある授業とは何かを研修する。 ・家庭学習記録表や面談を通し、学習を継続する力を支援し生徒個々にあった学習内容を支援する。連休や長期休業中の宿題・課題管理を行う。 ・公開授業を年2回実施することで、教員同士お互いの授業を見つめ直し、より良い授業を作り上げる研鑽の場を持つ。 ・教員として知らなければならないことやらなければならないことを整理し、文書等で周知する。 ・指導計画表のあり方を探り、生徒、保護者に公開できるシラバスの研究を行う。 ・早期に次年度の採用計画を立てる。土浦日本大学学園全体の採用計画に参加するようとする。 ・未履修になることが無いように授業の進度表を検証して行く。
学校生活への配慮 (生徒指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 ・マナーの向上 ・いじめ未然防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・コース・学年と連携、協力し服装及び頭髪などの指導を徹底する。 ・爽やかな挨拶や学校外での節度有る態度を心がけさせ、マナーの向上を目指す。 ・普段から生徒の様子を觀察し、いじめの未然防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめな指導を継続する。 ・HRや授業の開始時、終了時にも挨拶を徹底させる。また、通学時等のマナーについても普段から生徒に呼びかける。 ・年間4回のいじめアンケート調査により、実態を把握し、必要に応じて指導する。
生徒会・部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化 ・関東・全国大会出場 ・部活動による人間教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒からの意見を聞くなどして、生徒の学校生活の充実を図る。 ・生徒が自ら計画し、行動できるように生徒会行事を工夫する。 ・部活動においては関東大会や全国大会出場を目指す。また、部活動を通じて豊かな人間教育を推進し、社会貢献できる人材の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目安箱、アンケート調査を実施。生徒総会を通して、生徒のニーズに応えられるように活動する。 ・選手の強化のみならず周囲の生徒の模範となるようなマナーの向上を指導者に呼びかける。

平成28年度取り組み目標と方策			
評価項目	取組目標	取り組み	具体的方策
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学年との連携の充実 ・キャリア教育の充実 ・進路決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・実力試験を管理し、活用を促し、有効性を検討する。 ・生徒が自主的に進路について調べたり、相談できる体制を作る。 ・生徒が第一志望の進路を実現できるように説明会や面談を企画する。 ・面接指導や小論文指導に関わる教員に資料を提供できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実力試験の成績をDB化し、次年度の計画に活用する。 ・進路資料閲覧室を整備し、内容を充実させる。 ・日本大学学部説明会、オープンキャンパスレポートを実施。 ・進路資料閲覧室に教員が利用できる設備し、資料提供計画を作成する。
保健衛生教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ・組織、体系の見直し ・連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・洗面所、トイレの清掃と備品の補充の徹底。 ・学校として教育相談の位置づけを明確にし、全教職員の共通理解の下に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・石けん、消毒液などの点検を毎日行う。 ・学年、コースとの連携を図るため、定期的な情報交換の場を設け、情報を共有する。 ・カウンセラー来校日の相談時間を公開し、空き時間に担任と連絡できるようにする。
図書	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室のさらなる活性化について検討する。 ・自習室としての図書室の活用の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の積極的な図書の選定と生徒参加型の催しを推進する。 ・明確な使用ルールを示し、学習しやすい環境を整える。
入試広報	<ul style="list-style-type: none"> ・入学生の確保 推薦志願者 100名以上 総志願者 1300名以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「本校の売り」を明確にし、教職員全員の意思統一を図る。 ・認知度、理解度そして信頼度の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こまめに中学校訪問をする。 ・学校見学会や説明会を活用する。 ・ホームページをリニューアルし受験生への認知度を高める。また、在校生、保護者専用の内部サイトを作成し、学校生活の様子を見てもらい、安心感、信頼感を高める。
情報処理	<ul style="list-style-type: none"> ・情報処理 ・データの保管 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個人情報など管理データの保守に万全を尽くす。 ・校内情報機器の整備 ・情報教室および校内のLAN整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的にバックアップ取る。 ・広報活動に使用する写真を保存するためRAID6のNASを導入。 ・校内ネットワークのメンテナンス ・FWとL3スイッチの老朽化に伴い機器の交換。
庶務	<ul style="list-style-type: none"> ・役割の明確化 ・業務の連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を明確化し、円滑な業務運営を行う。 ・一つの業務を複数の担当者で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各役割分担を明確にし、早い時期から準備を始める。 ・一つの業務を一人の教員が長年担当している場合があり、一つの業務はできるが他の業務はできない場合も多い。知識・技術を若手に伝えるためにも、複数で業務に当たるようにする。

平成28年度取り組み目標と方策			
評価項目	取組目標	取り組み	具体的方策
全コース 1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的に学習する力を育て上位層の倍増と下位層の激減を目指す。 ・岩日＝良い学校＝ホームルームクラスが良い環境。学校生活満足度の向上を目指す。 ・志望理由の言える文理選択、進路選択を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業も家庭学習も大切にさせる。 ・放課後学習の勧め ・課外授業の工夫 ・朝、昼休み時間の活用 ・定期考查の工夫 ・時期を押さえた年4回の計画的な面談の実施 ・生徒とのコミュニケーションの充実 ・学校行事を通したリーダーの育成 ・大学入試改革に遅れない進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習手帳の導入し活用することで日々の学習を定着させる。 ・午後8時までの学校での自学習対応の充実を図る。 ・学習項目重視、短期集中で行う。 ・学び直し学習、読書を行う。 ・思考力を問うような定期試験問題の作成を依頼する。 ・4月、夏休み、9月、1月の4回2者面談または3者面談を行う。 ・HR、昼休み、放課後できるだけ教室など生徒のいる場所へ出向く。 ・桜瑛祭、宿泊学習、体育祭等で生徒の自主性を促す指導を行う。 ・学年行事と進路行事を通してミスマッチのない文理選択をさせる。
全コース 2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年としての結束と国立コースの縦のつながり ・学力向上 ・進路意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・日大・総合・国立それぞれのクラスの特性を考えた指導とそれぞれが持つ良さをお互いに認め学び合い、競い合える集団作りを行う。 ・学習手帳の導入により、学習時間の記録、日々のスケジュール管理、課外活動の記録などこまめに記入させる。 ・進路サポート（教材）の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・文武両道、勉強と部活動等の両立を図る。 ・目標を持ち、追い求める努力を養う。 ・自ら学び、判らないところはすぐに解決を図ろうとする姿勢を育む。 ・明るく元気の良い挨拶、礼儀正しさを励行する。 ・国立コース3年と1年との連携を重視する。 ・SHRの際には、学習手帳を必ず開かせる。 ・提出物の期限、テストの日程など記録させることを通し、自己管理能力を高める。 ・年間計画を策定し、時期に応じて進路サポートを活用し進路指導を行う。

平成28年度取り組み目標と方策			
評価項目	取組目標	取り組み	具体的方策
日大・総進 コース 3学年	・学力向上 ・進路達成	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力不足の生徒に対して、各教科担当者の協力を得ながら対応する。上位層について、さらに成績が伸長するように促す。 ・教員間での共通理解を持ちながら、生徒の進路達成に向けた指導を行う。日本大学への進学を第1に考えた指導を行うがその他の進路希望に対しても生徒の適性に併せた指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業担当者会議の実施をする。 ・基礎学力到達度テストで成績順位8割以内に入れるように生徒一人一人に注視しながら、課外授業、特別編成授業を含めた学習指導を実施する。 ・日本大学の推薦制度の研究 ・就職希望者者ガイダンスの実施 ・面接、小論文指導の実施
国立コース (3学年)	・学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の多様な進路選択に対応できるよう教員間で連携し、学習指導・進路指導を行う。 ・国公立大学合格率30%以上、またMARCH等の難関私大、医療系大学への合格を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績層に応じた模擬試験実施後のグループ指導や個別指導の実施 ・計画的な面談の実施 ・大学入試センター試験の研究 ・日本大学基礎学力テストの研究 ・家庭学習の工夫と放課後自学習の推進